

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	0371300203		
法人名	社会福祉法人 共生会		
事業所名	グループホーム アミーチ		
所在地	二戸市似鳥字上平15番地1-2 〒028-6721 (電話) 0195-20-1020		
評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団		
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19-1		
訪問調査日	平成19年6月14日		

## 【情報提供票より】平成19年5月22日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 16 年 3 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤8人、非常勤 人、	常勤換算 8人

### (2)建物概要

建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	9,000+他実費 円
敷 金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 900 円		

### (4)利用者の概要( 5月 22日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	7 名	要介護2	0 名
要介護3	2 名	要介護4	0 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 83.3 歳	最低 70 歳	最高 93 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	岩手県立二戸病院
---------	----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

併設して同一法人の特別養護老人ホームサントピアがあり、毎日の昼食は、このサントピアの方々と一緒に摂るなど、日常的に友好関係が持たれている。地域密着型を法人全体で実践しており、地域との関係も構築されている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	自己評価の内容や外部評価の結果を受け、必要部分については、見直しやマニュアル等の点検を行い、整備されている。年一回の健康診断への取り組みは、家族への働きかけを行い、理解を得て実践されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	実践出来ている内容についても、今後への継続課題として自己評価を行っている。常によりよいケアを求めて取り組んでいる事が窺える。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議の構成員は、グループホーム担当職員、当該法人の介護職員や地域の民生委員等である。馴染みの関係性も築かれていることもあり、活発な意見交換の場として、また地域とのつながりを保ち続ける有効的な会議として行われている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情や意見の汲み上げはなかなか難しいと思われるが、その方法として地域の方々にオンブズマン的役割を担って頂き、利用者家族の意見を聞くことにより風呂場の改修等を行った。意見反映への取り組みは積極的に行っている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	利用者家族を始めとし、グループホームへの理解が地域住民に感じられる。小学校の行事への招待を受け出向いたり、また敷地内の部屋を夏休みに開放し、子供たちへ気軽な学習の場を提供している。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者はデイサービスから移行した方が多く、毎日の昼食を併設の特別養護老人ホームと、デイサービスの利用者とする事で、近隣馴染みの人との交流を図っている。田や畑を借りて作業を行う等、地域との関わりを大切にしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、玄関に掲示され、職員全員での復唱は、家庭、日常という見方から、不自然と感じ行われていない。日々の介護を地域との関わりを持つ工夫に努め、理念の共有、実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の小中学校の行事に参加したり、可能な時は施設行事に招待したりと、子供たちとの触れ合いを大切にしている。利用者家族を始め地域住民の方々の、グループホームへの理解が深く感じられる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の内容や外部評価の結果を受け、必要な部分については見直しやマニュアル等の点検を行い、整備されている。年一回の健康診断も、家族の協力を得ながら実践されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーに、グループホーム担当職員、当該法人の介護職員や地域の民生委員の参加がみられ、たくさんの提案、報告、活発な意見交換が会議で行われている。今後は利用者さんの家族や包括支援センターの方々をメンバーに加え、質の向上に努めて行く予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	今までは、在宅支援センターを通して、市町村との連携を図って来たが、現在は在宅支援センターがなくなり、円滑な市町村とのつながりを模索中である。	○	市町村との関係作りを深めることで、情報の共有、課題解決の理解、支援等が得られ、地域に根ざした質の高いサービスがし易くなると考えられる。運営推進会議のメンバーになってもらう等、積極的な対応を期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	便りによる定期的な担当者からの報告や、日常生活で変化があった場合、速やかに電話で報告を行っている。金銭管理も出納帳で管理を行い定期的に内容を家族に確認して頂き確認印を貰っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	グループホーム独自の苦情処理箱は、意見・苦情は出にくいと判断し設置していないが、地域の方々にオンブズマン的役割を担って頂き、風呂場の改修やカーテンの色替えを行った。今後は運営推進会議のメンバーに家族の方々を加え、意見を積極的に反映させる予定である。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動は、大体3年に1回程で、異動する場合も約一ヶ月かけて引き継ぎ、利用者さんが代わった職員に馴染めるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の勉強会や、研修会へ積極的に参加している。研究の発表という場面もつくり、職員の意識向上へも取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	在宅支援施設の交流会や、親睦会に参加したり、リーダー研修など、各研修会で知り合った同業者から情報を得たりしている。近隣のグループホームを見学する事にも、積極的に取り組み、日々のケアの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	「馴染みながら」の気持ちを大切にしており、グループホーム利用者は、併設のデイサービスや特別養護老人ホームのショートステイを利用していた方々が殆どである。家族とも十分話し合い、段階的な支援の工夫に時間をかけて行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	センター方式を記録で活用し、利用者個々の細かな観察、家族や本人の言葉や行動から、色々な思いを受け入れ、ひとり一人の背景も大切に、一緒に過ごしている。食事作りの時は、教えられる事が多く、畑仕事では生き生きと活躍されている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用する事で、本人を取り巻く色々な事を把握し、理解している。何気ない利用者さんの言葉を大切に、味噌もち作りを行ったり、母の日に家族と会えない利用者さんを買物に誘うなど、本人の思いを汲み取って接している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	通院の時は、通院カルテを個々に作成し、それを持って家族に付き添って頂いたり、家族が付き添えない時は、ヘルパーさんに御願いで、そのやり取りを連絡ノートに記載している。その他家族の意向や、本人の意思、要求を反映し、介護する側の意見を交えて計画作成を行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回ケース会議を行い、ケアプランを作成、作成後は、家族に承認のサインを頂いている。細かな状況の変化に職員が常に気を配るよう努めており、現状にあった介護計画を見直し、介護を実施している為介護度が良くなっているケースも多い。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出支援は、予定されている以外の、急な希望によっても行われている。また、遠出にサクランボ狩りに行ったり、畑仕事、編み物、計算プリントを要望によって行っている。	○	本人、家族の意向や理解を得た上で、今後は温泉などの宿泊を伴った外出支援も考えて行きたい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医との関係を崩さずに対応している。連絡ノートで受診内容の把握や、かかりつけ医との関係づくりに努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族アンケートを実施し、終末期のあり方について、考える機会を作っている。個別の終末期に対する考え方を踏まえ、併設の特別養護老人ホームと連携し、支援体制を整えている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者同士のやり取りの中での、プライバシー確保についても努めている。利用者の方の失敗などを、お互いに責めないように、さり気ない移動や、他の利用者さんへの声かけにより双方へ気を配っている。個人情報委員会を設置して、月一回話し合うことにより、個人情報の取り扱いについて意識を高めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出したい、買い物に行きたいなど、利用者さんが、何気なく言った言葉を大切に、出来る範囲で希望が叶えられる様、努力している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	意欲をかき立てる為に色々と検討し、「当番」を決めて食事の準備をしている。強制的なものではなく、利用者さん次第の役割であり、生活の中での役割分担を意識し、美味しく食事する楽しみを味わってもらっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴出来るよう支援している。午後の時間帯の入浴希望者が多く、夜間浴を希望する利用者さんがいない為、現在は夜間浴を行っていない。体調不良の為入浴できない利用者さんは、全身清拭等を行っている。	○	入浴判定は、個々のバイタルサインの確認で行っているが、事故防止のため、マニュアルの準備が必要と思われる。併設の特別養護老人ホームと連携して、今後準備など行っていこうと考えている。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者さんの背景や現在の状態から、趣味や特技を十分把握しており、利用者さんが、自由に個々の楽しみを行える環境を作っている。料理当番も、意見を聞いて作成し、本人のやる気をアップさせている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の方は、広い敷地内を自由に散歩している。見守りの必要な方も、朝夕職員が付き添って、散歩をしている。もし敷地外に出ても、近隣の方々の協力にて、帰ってくる事が出来ている。また買い物や畑仕事等も、希望を聞き柔軟に対応をしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は自動ドアで、日中は自由に入出入り出来ている。ベルや鈴等はなく、入り口の開閉を職員が確認している。各居室も鍵はかけられていない。近隣の方々の理解も得られ、見守り、声かけなど協力して頂いている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	グループホーム内では、月に一回夜間の設定で、避難訓練を実施している。また地元の消防団や地域のPTAで組織する婦人部の協力を得て、法人全体での避難訓練も、年二回行っている。多くの地域の皆さんの協力を得て、避難訓練を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝昼夕の食事量を記録して、著しく減少した利用者さんには、食事、水分量をチェックしている。職員が情報を共有し、適切な工夫、支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は程よい光が入り込み、静かな空間がある。自分達の畑が大きな窓の先にあり、作物の状態がよく見える。食堂、居間スペースに、季節ごとの飾りつけが見られ、七夕の装飾がされており、共用空間の中にも一人になれる場所がある。椅子が置かれて畳の上がりも、落ち着いた雰囲気がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を、自由に持ち込みしている。居室の印象は、家族の写真が多く飾られたり、利用者本人の作った作品が飾られ、好みの自室の感じが漂っている。窓も大きく、外の風景も良く見える。		